

大阪・関西万博関係府省庁連絡会議（第2回）

議事要旨

日 時： 令和3年5月12日（水） 17：30～18：30

場 所： 合同庁舎4号館 第一共用特別会議室

出席者：

（議長）

国際博覧会担当大臣

井上信治

国際博覧会担当副大臣

長坂康正

国際博覧会担当大臣政務官

宗清皇一

（副議長）

内閣官房国際博覧会推進本部事務局長

藤井健志

（副議長）

経済産業省商務・サービス審議官

畠山陽二郎

内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長

高科淳

内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長

大内聡

内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長

大高豪太

内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長

吉田泰彦

内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

木村聡

内閣官房危機管理審議官

松本裕之

内閣官房 内閣広報室内閣審議官

田中愛智朗

内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官

高原勇

内閣府政策統括官（防災担当）

青柳一郎

警察庁長官官房総括審議官

櫻澤健一

復興庁統括官付参事官

石川靖

総務省大臣官房総括審議官

吉田博史

出入国在留管理庁出入国管理部長

丸山秀治

外務省経済局審議官

田島浩志

財務省大臣官房政策立案総括審議官

藤本拓資

文部科学省大臣官房総括審議官

串田俊巳

厚生労働省大臣官房審議官（総合政策担当）

度山徹

農林水産省大臣官房総括審議官

青山豊久

国土交通省総合政策局長

石田 優

観光庁国際観光部長

金子知裕

環境省大臣官房総合政策課長

永島徹也

防衛省大臣官房審議官

町田一仁

消費者庁政策立案総括審議官

津垣修一

1. 冒頭挨拶

○井上大臣

- ・大阪・関西万博まで残り4年を切ったところであり、コロナ禍の厳しい状況だが、参加招請活動の実施、会場及び周辺インフラの整備、万博開催に向けた全国的な機運醸成、企業等の積極的な参画の推進など、万博開催に向けた準備を着実に進めていく必要がある。
- ・本日は、大阪・関西万博の会場を活用した具体的な取組の検討などについて関係府省庁から進捗を聞き、議論を行い、準備をさらに加速していきたい。
- ・大阪・関西万博では、リアルとバーチャルを融合させた新しい国際博覧会の姿を打ち出してしていくこととしており、まず、我々自身が新しいアイデア、手法にチャレンジしていくことが重要。コロナ禍によりリアルで集まることが難しい状況において、リモートで夢洲の状況を共有しながら会議を行うデジタル技術を実験すべく、今回の連絡会議は、国務大臣が主催する会議で初めて、VR技術を用いて開催することとした。
- ・今、いるのは現在の夢洲。この更地の夢洲を「未来社会の実験場」にして、世界中の人々に「夢」や「驚き」を与え子どもたちがワクワクするような万博を作り上げていきたい、そのために何ができるのか、規制改革や予算措置も含め、具体的な取組を政府一丸となって進めていきたい。

2. 事務局等からの説明

○高科国際博覧会推進本部事務局次長

- ・各部局の組織再編に伴い、幹事会及び各分科会の構成員の所属等を変更。
- ・基本方針の具体化について、検討を進めているところ、現在の検討状況を資料5に整理している。

3. 各省からの説明

○畠山経済産業省商務・サービス審議官

- ・カーボンニュートラルについては、CO2を空気中から直接回収する技術や、水素・アンモニア発電、どこにでもはれるような太陽電池、CO2を吸収するコンクリートといったデモンストレーションを実施していきたいと考えている。
- ・健康医療の関係についても、人生100年時代を健やかに生きるための技術の体験として、治療の負担を軽減し、患部を特定する技術や、農業、工場における介護用マッスルスーツの活用、介護用の排泄物を匂わなくする椅子を災害現場で活用、網膜に映像を投影する機器を展示してく。
- ・併せて、ビジネスコンテストも実施。過去のコンテストでは、失われた声を取り戻す技術や転ぶとへこむ床、といった事業が選ばれた。
- ・新しい移動体験、空飛ぶ移動クルマの運行サービス等の新たなサービスを提供。自動配送ロボットにより、万博会場におけるデリバリーの実験を検討中。
- ・機運醸成については、6月に大阪・関西万博協賛競輪を実施し、機運醸成に貢献。

○高原イノベーション推進事務局審議官

- ・科学技術イノベーション基本計画において、Society 5.0の実現に向け、次世代にひきつぐ基盤となる都市と地域づくりとしてスマートシティの展開を掲げている。これらを通じて、いのち輝く未来社会のデザインを具現化した、Society 5.0の姿を発信していきたい。
- ・関西地区においては混雑状況を可視化する技術や顔認証等の技術の導入を進めているところ。
- ・衛星データを活用した革新的なサービスや、米国主導のアルテミス計画への参画により月面等への人類の活動領域の拡大に向けた取組を含め、宇宙利用の未来像を示していきたい。
- ・海洋事務局が関係府省庁をまわり、協力依頼と情報交換を進めているところ。関係府省庁からは好感触をいただいている。

○吉田総務省大臣官房総括審議官

- ・「多言語翻訳技術」については、総務省と情報通信研究機構(NICT)の研究開発成果によって、スマートフォン用翻訳アプリの「ボイストラ」や音声翻訳機「ポケットク」に代表されるように、短い文章の逐次翻訳で実用的な精度を実現し、広く利用されている。
- ・現在は、昨年3月に策定した「グローバルコミュニケーション計画2025」に基づき、2025年に向けて「文脈や話者の意図を補う同時通訳」を実現すべく取り組んでいる。
- ・大阪関西万博では、パビリオンや講演会場での活用も念頭に置き、オンラインや字幕表示等にも対応した多言語同時通訳システムの実装を目指している。
- ・社会実装を意識して、これまでの研究成果を活用することで、オンラインイベントの配信動画にAI翻訳字幕をリアルタイムで付加する実証を行った。
- ・「Beyond 5G」については、研究開発、知財標準化及び展開の三つの柱からなる「Beyond 5G推進戦略」を令和2年6月に策定、公表している。本戦略に基づき、2030年代のBeyond 5G導入を見据えて様々な取組を産学官の連携の下で進めている。
- ・これらの取組を、本戦略のマイルストーンとして位置づけられる2025年の大阪・関西万博において「未来社会のショーケース」として結実させることで、2030年代に期待される社会像を支える我が国の先端技術を世界に訴求してまいりたい。なお、Beyond 5Gはインフラであり、どう活用するかは関係府省庁との連携が必要となることから、各関係府省庁におかれては御協力をお願いしたい。

○串田文部科学省総括審議官

- ・パビリオン展示等については、理化学研究所で研究開発を進めている次世代ロボットの展示を検討しており、人のこころのメカニズムを計算論的に解明し、それを実装する事で、人がこころを感じるロボットの実現を目指しているところ。
- ・また、我が国の魅力を発信するため、日本の伝統文化や、最先端技術を用いた各種アート・デザイン、ポップカルチャー等の展示に向けても、積極的に協力。
- ・科学技術振興機構が主催する、科学技術と社会の関係を深めるイベントである「サイエンスアゴラ」は、万博協会から後援をいただいております。2020年には、京都で万博協会と共

同セッションを実施。

- ・各都道府県教育委員会などに対して、修学旅行や校外学習などで万博を訪問することの教育的意義などについて、周知を検討。

○青山農林水産省大臣官房総括審議官

- ・「輸出拡大に向けた我が国農林水産・食品産業の有する魅力の発信」として、和食や食文化、農泊体験など、我が国の農林水産・食品産業が有する魅力を世界に向けて発信。
- ・「未来の持続可能型農林水産業の実現に向けた実証・展示」として、「みどりの食料システム戦略」に沿った未来の持続可能型農林水産業の姿を実証・展示
- ・「輸出拡大に向けた魅力の発信」では、日本食文化・農泊体験の発信、会場内外における国産木材製品・利用技術の情報発信、食品ロス削減に向けた飲食物持ち帰り・フードシェアリングの徹底等の運動推進等に取り組んでいく。
- ・「実証・展示」では、持続可能型農業の実証モデル構築、スマート×グリーン技術の実証、月面等における長期滞在を支える高度資源循環型食料供給システムの開発・展示等に取り組んでいく。

○石田国土交通省総合政策局長

- ・空飛ぶクルマに明確な定義はないが、「電動」「自動操縦」「垂直離着陸」が一つのイメージであり、都市部での送迎サービスや離島・山間部での移動手段、災害時の救急搬送といった活用が期待されている。
- ・平成30年には、官民の関係者を一堂に集めた「空の移動革命に向けた官民協議会」を設置し、令和5年に事業を開始することを目標とするロードマップを策定。
- ・この空飛ぶクルマ実現に向けた検討をさらに具体化・加速化するべく、専門家や事業者を集めた「実務者会合」、更にその下に「ユースケース検討会」と3つの「ワーキンググループ」を立ち上げ。機体の安全性基準や操縦者の技能証明基準、運行安全基準の整備に向けた詳細な検討を進めている。
- ・事業者による空飛ぶクルマの機体開発を後押しするため、本年3月26日には、「試験飛行の関連条文の一覧」、「試験飛行の許可事例」を公表。また、4月から、福島ロボットテストフィールドに職員を常駐させ、現場での規制面の助言などサポートを行っているところ。今後も、試験飛行のガイドライン等を新たに策定・公表し、事業者の実証試験を支援していく。
- ・全国的な機運醸成のため、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックと同様に、大阪・関西万博記念自動車ナンバープレートを、期間限定で、全国の希望者に対して交付。交付に合わせて寄付金を募集し、その収入を大阪・関西万博開催に向けて必要となる費用に充てることを検討。
- ・具体的な交付時期やデザイン、寄付金の活用方法等については、今後、国際博覧会協会等の関係者と調整して決定。
- ・他にも、会場の周辺インフラの整備や会場への交通アクセス機能の確保、海上警備等のセキュリティ・テロ対策等、関係省庁や地元自治体等と緊密に連携し、万博の開催に向け

て必要な取組みを着実に進めていく。

○金子観光庁部長

- ・訪日外国人旅行者の受入体制を整備すべく、訪日外国人旅行者の来訪が特に多い観光地等における多言語対応の強化や無料公衆無線LANなどのまちなかにおける面的な取組を支援。なお、平成30年度より地域観光資源の多言語解説整備支援に取り組んでおり、これまでに213 地域における多言語解説文（英語）の作成等の支援を実施。
- ・観光庁監修の訪日外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ「Safety tips」やJNTO公式のSNS等を用いて外国人旅行者に対する熱中症情報等を多言語で発信していく。
- ・大阪・関西万博は、世界から日本への注目度が大きく高まり、訪日意欲を喚起できる絶好の機会と認識。2019 年のラグビーワールドカップにおいては、海外メディアも含めた多数の来日者を迎え、世界中に我が国の魅力について報道されるとともに、各地において暖かい国際交流が図られた。こうした経験を活かし、大阪・関西万博においても、日本各地の魅力を海外へ発信すべく、JNTO 等を通じた情報発信や開催期間中の海外メディア招請等の実施を検討していく。

○永島環境省総合政策課長

- ・大阪・関西万博は、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた、日本発の新たな社会像を世界に発信する貴重な機会。
- ・2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、昨年12 月から、「国・地方脱炭素実現会議」を開催。先月20 日に開催された第2回会合では、「地域脱炭素ロードマップ」の骨子案を議論。5 月から6 月の間に地域脱炭素ロードマップの具体化に向けて関係各省との調整を進めていきたい。
- ・従来から進めている地域循環共生圏の取組も踏まえ、関係省庁や自治体の皆様とも連携しつつ、地域脱炭素ロードマップに基づき、脱炭素のモデルケースを各地に創り出し、脱炭素ドミノの実現に取り組んでいく。
- ・こうした流れも踏まえつつ、万博自体のカーボンニュートラルの実現も期待されます。
- ・こうした取組は、大阪・関西万博が掲げる「いのち輝く未来社会のデザイン」の具体化と軌を一にするものであり、環境省としても大阪・関西万博の成功と地域の脱炭素化実現のために積極的に貢献。

○長坂副大臣

- ・それぞれの役所に精力的に取り組んでいることに感謝。今回のVRのように何でもやってみるのはいいこと。皆様の一層のご尽力にご期待申し上げたい。

○宗清政務官

- ・今日は井上大臣のもと、VR会議を実施。良い体験をさせていただいた。まだまだ課題はあるが、万博に向けた新しい取組に感謝したい。
- ・各府省庁の取組状況も聞かせていただいた。新しいアイデアがあったら、またぜひお話

しいいただきたい。

4. 閉会挨拶

○井上大臣

- ・本日は、大変有意義な議論ができた。
- ・今、お見せしているのは、2025年、大阪・関西万博の会場のイメージ。会議の初めにお見せした更地の夢洲を、このような世界の人々に「夢」や「驚き」を与える場所にしていきたい。
- ・縦割りを打破し、関係府省庁で連携して取組を加速していきたい。
- ・大阪・関西万博のコンセプトは「未来社会の実験場」。改めて、関係府省庁の皆様方におかれては、前例にとらわれず、新たに万博を作り上げるという気持ちで引き続き取り組んでいただきたい。